

田んぼまるごといただきます!

2012年 研修所、実りの秋



今年の10月の研修所は、2年生が佐渡特別公演の為に10日ほど研修所を離れて小木に合宿。

例年、1、2年で力を合わせてする稲刈りや柿発送などの作業を、留守番の1年生が一手に引き受けることになりました。

そんな矢先、体調を立て直す為に同期の一人が一時帰省することに…。

自然や、人との出会いや、共同生活に教えられながら、稲と同じく成長する研修生。

彼らの日誌に現れたこの季節の心模様を紹介します。

十月十日

今日から二年生と、リキがない生活が始まりました。リキの二時帰宅の話聞いた時は驚いたけど、自分の身体をしっかりと分かって、また元気に戻ってきてくれることを祈ってます。そんなことでリキが抜けて二年の男七人、寂しい感じは募り、作業量は増える。

今日の機関誌発送も長く感じましたし、茶道のお点前も、食事当番も回ってくる順番が早い。明日からの稲刈りと柿発送もなあ…。しかし、こんなこと言い出したらキリがないのでとりあえず頑張ります。でも、一人いなくなるとこんなに大変で、忙しいとは思いませんでした。しかも、つまらない!

みんな仲間であり、みんなライバル。難しい環境ですが、仲間の存在の大きさに初めて気づいたように思います。おい、早く戻ってこいよお!!

十月十日

今日は丸一日稲刈りで、腰が痛くなり、正直しんどかったです。一度集中すると、かなりのスピードで作業ができるんですが、まだかなり自分の中で流れにムラがあり、作業の効率がなかなか上がりません。ですが「コンバイン」という称号を手にするために、明日もひたすら刈り続けます。

刈っている時に、フツと空を見たり、トンビを見てポーっとしたり、稲を刈る音を聞いたり、泥の音を聴いたり…。作業以外の部分から楽しさを見つけることが得意になりました。今日最後の方で仲良く並んでいる稲があったので、切らないで一本だけ残しておきました。他の稲と同じだとは思いますが、何故か別物に見えてしょうがなかった。でも、僕達の大切なお米なので、明日丁寧に取り扱うと思います。

リキも今頃、自分の身体を知ろうと必死だと思うので、僕達も必死に稲を刈ります。リキがいなぶん大変ですが、あいつが元気に戻ってきてくれればそれで充分です。リキのことを考えながら今日も大太鼓を鳴らします! 千葉まで届くかな…。

十月十四日

今日は稲刈り明けの五日ぶりの稽古でした。五日間、夜の時間しか太鼓を打っていなかったで、下の田んぼが一段落つきそうな昨日から待ち遠しくて仕方なかったです。久しぶりの稽古で、改めて「太鼓って楽しいな」と思いました。様々な経験をさせてもらえるこの研修所。その中で「太鼓を叩ける」という初心を忘れずに、これからも取り組んでいこうと思います。